

## 三重県松阪市でリーサスを活用した政策立案ワークショップを開催しました

平成31年2月  
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府地方創生推進室  
経済産業省中部経済産業局

三重県松阪市にて、地域の企業・団体及び地方創生に携わる職員等を対象に、「地域経済分析システム (RESAS)」を活用した政策立案ワークショップを下記のとおり開催しました。地域政策の視点から専門家である青山社中株式会社の筆頭代表 CEO 朝比奈一郎氏、グローバル事業担当 水野貴允氏の協力を得て、松阪市の現状分析などをもとに、若年人材の確保に向けた今後の対応策などについて意見交換を行いました。

### 記

1. テーマ：「企業活動を支えるための雇用支援、若年人材の確保について」
2. 日時：平成30年12月18日（火） 14：00～16：30
3. 会場：松阪市役所 議会棟 第3・第4委員会室
4. 主催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府地方創生推進室  
経済産業省中部経済産業局
5. 参加者：
  - ・松阪市職員（市長、副市長、教育長、企画振興部長、産業文化部長、企業誘致連携課職員） 6名
  - ・松阪商工会議所 専務理事 高畑 明弘 氏
  - ・株式会社オクトス 取締役 企画管理部長 萩原 努 氏
  - ・オムロンヘルスケア株式会社 グローバル人事本部人事企画部人事グループ 基幹職 小西 美帆 氏
  - ・ゲスタンプ・ホットスタンプ・ジャパン株式会社 人事総務部長 吉川 健治 氏
  - ・航空機部品生産協同組 代表理事、株式会社加藤製作所 代表取締役 加藤 隆司 氏
  - ・ニプロファーマ株式会社 伊勢工場 総務部長 藤原 良久 氏
  - ・パワーサプライテクノロジー株式会社 代表取締役社長 山本 英司 氏
  - ・青山社中株式会社筆頭代表 CEO 朝比奈 一郎 氏
  - ・青山社中株式会社 グローバル事業担当 水野 貴允 氏
  - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員 2名
  - ・経済産業省（地域経済産業グループ地域経済産業調査室）
  - ・経済産業省中部経済産業局（総務企画部長、企画課職員）3名

合計 21 名

## 6. 議事次第

- ① 自治体職員によるリーサス分析結果発表
- ② 有識者によるデータ分析と意見
- ③ 政策ディスカッション

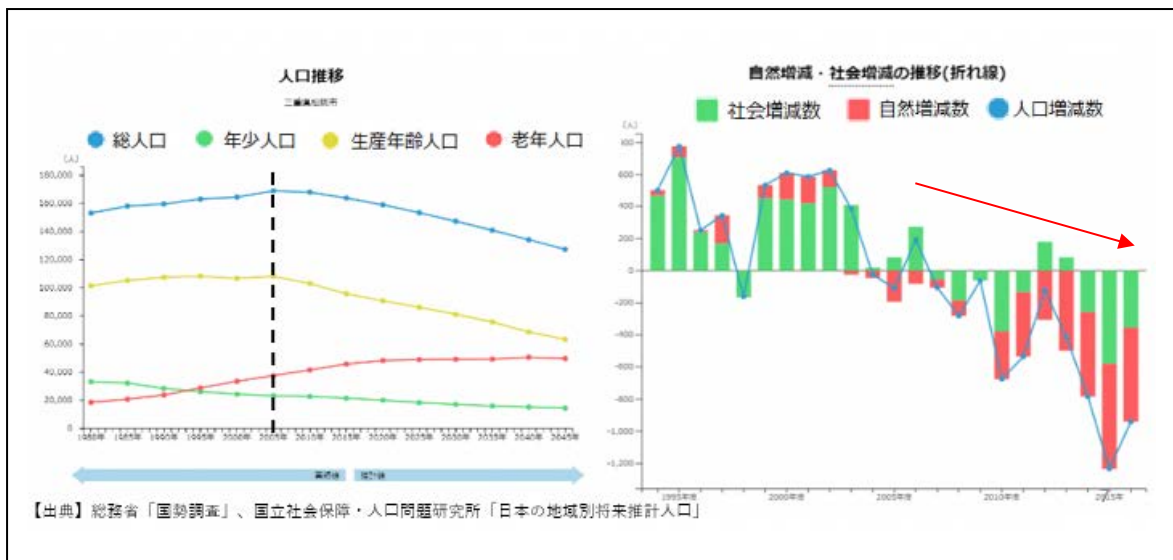
### 1. ワークショップ実施の背景

- 松阪市は景気変動に強い、多様な産業構造の構築及び地域経済の活性化を目指し、「松阪市企業立地戦略」を平成 30 年度中に策定し、企業の誘致、立地企業の定着を進めていくこととしている。
- 松阪市において国内外からの新規立地が進む中、今後の人口減少による働き手確保への影響が想定され、地域企業の雇用ニーズに応えるためには、地元からの雇用のみならず、地域外から求職者を呼び込むことが課題。
- こうした背景を踏まえ、松阪市における企業立地戦略の推進を補完すべく、企業活動を支える働き手、若年人材の確保に向けた支援方策の検討を目的に、本ワークショップを実施した。

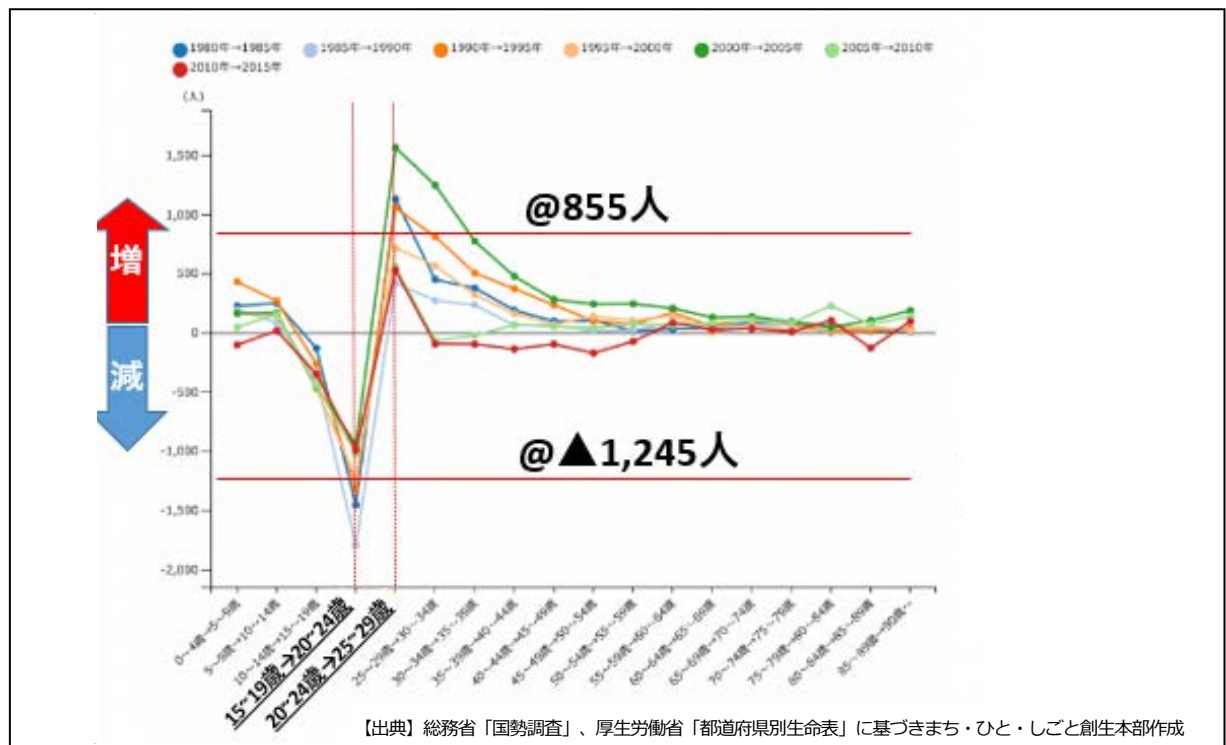
### 2. 議論のポイント

#### 現状分析：企業活動を支える働き手、若年人材の確保の状況

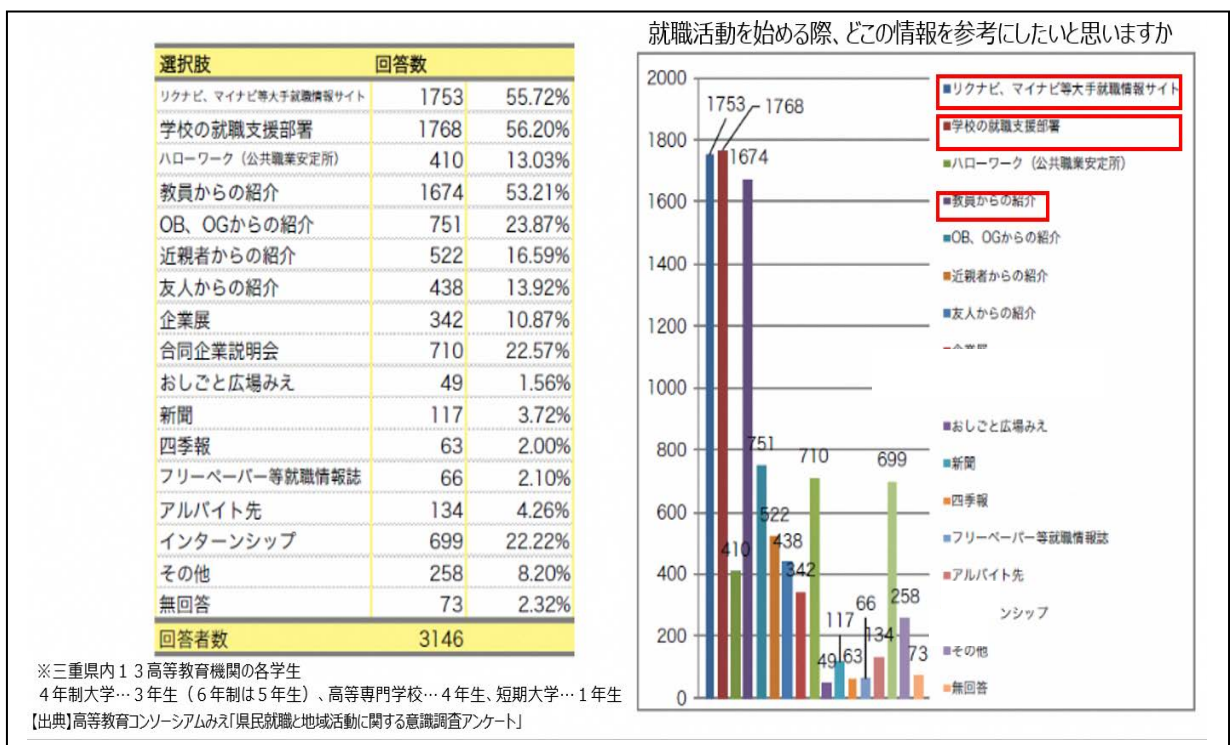
- 松阪市は 2005 年をピークに人口減少が続いており、このうち社会動態については、2012 年、2013 年に一時的な増加があったものの、減少傾向にある。



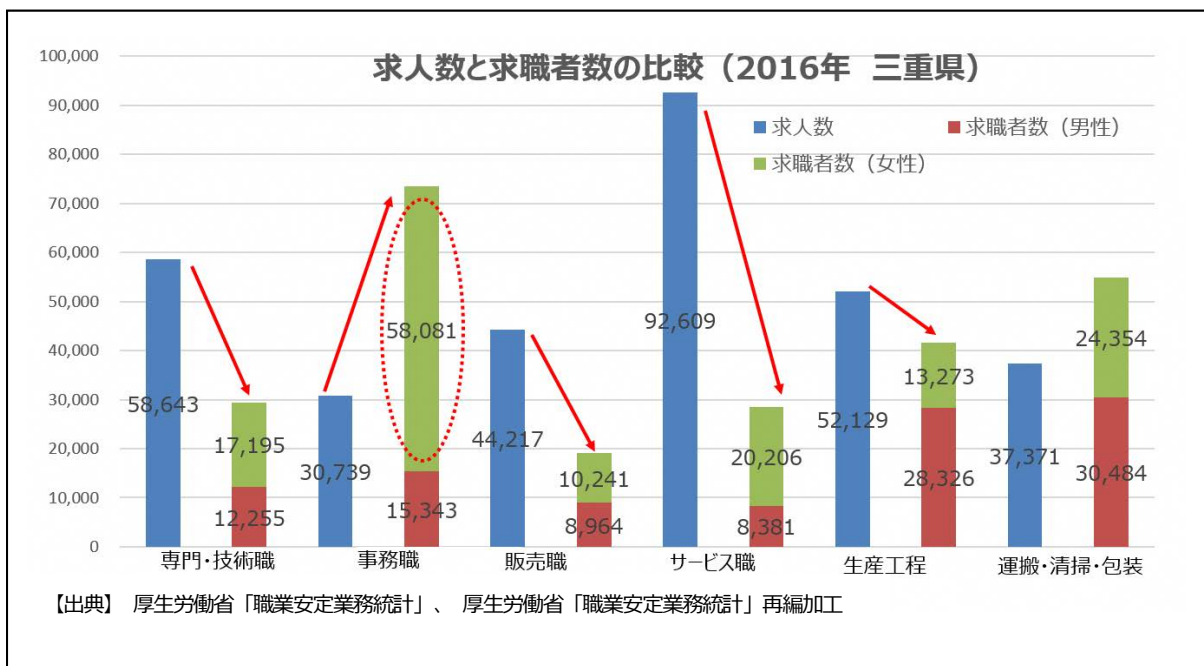
- 1980年以降の人口増減を年代別にみると、進学年代層が大きく減少し、その減少数のおよそ2/3にあたる就職年代層が増加している。



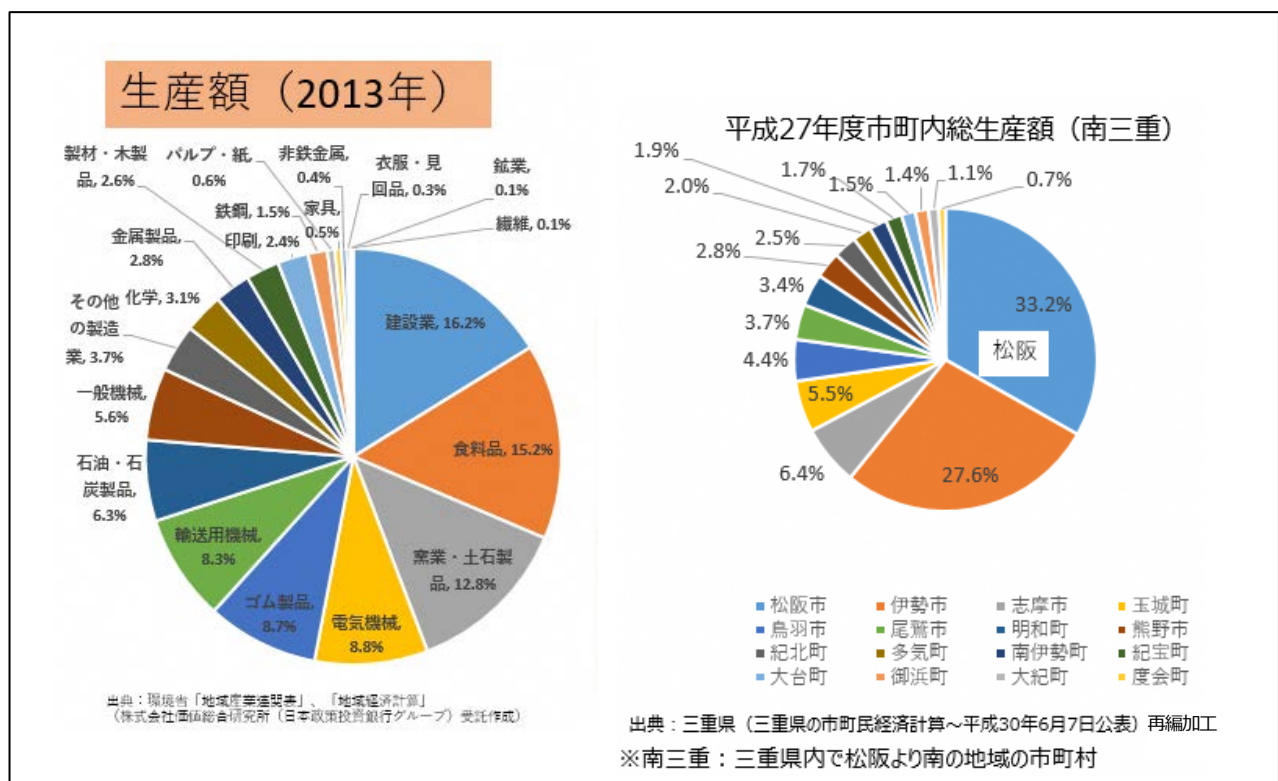
- 松阪市民へのアンケート調査によれば、松阪市外への転出希望者の理由のうち、「希望する就職先がない」とする層は、10歳代で20%、20歳代で14.3%。
- また、三重県内の高等教育機関の学生が就職活動をする際の情報の入手先は、「大手就職情報サイト」、「学校の就職支援部署」、「教員からの紹介」が上位。



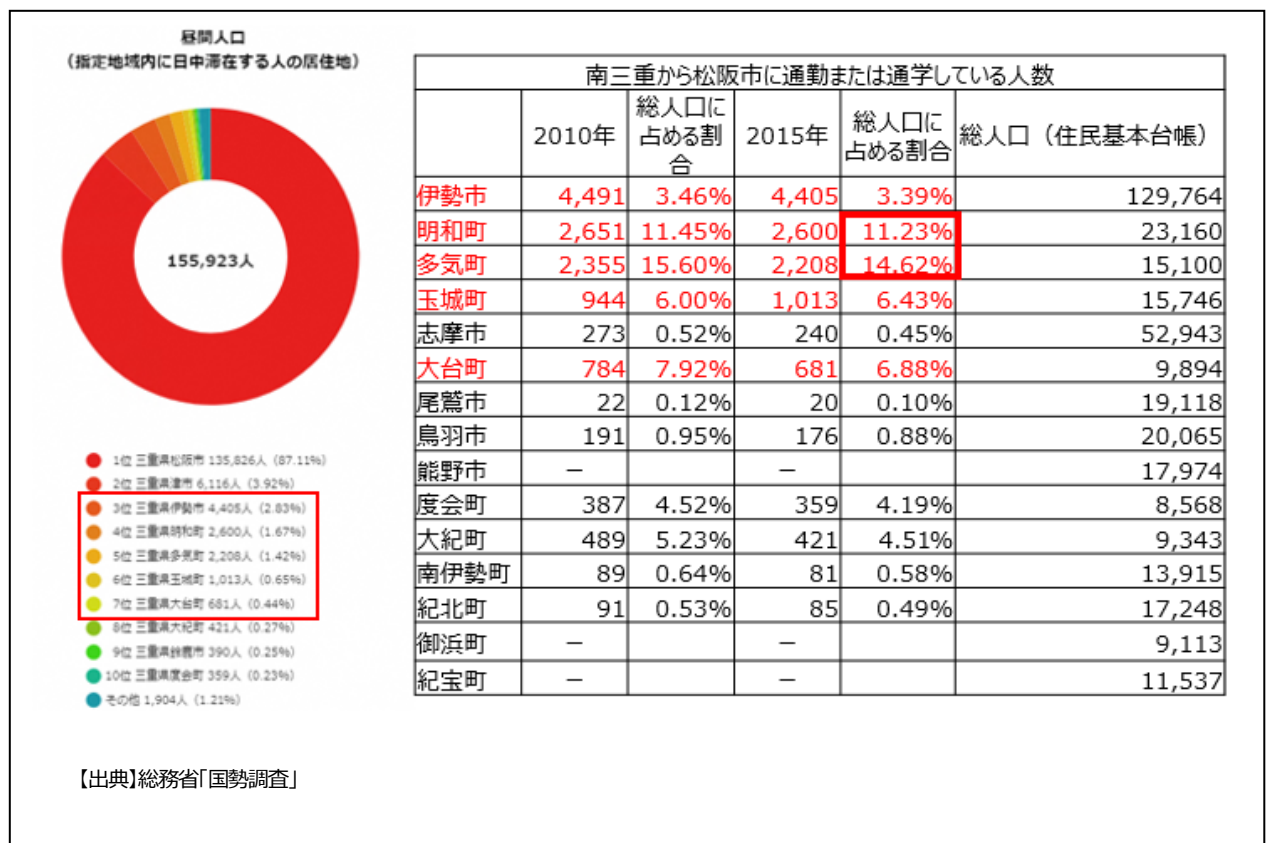
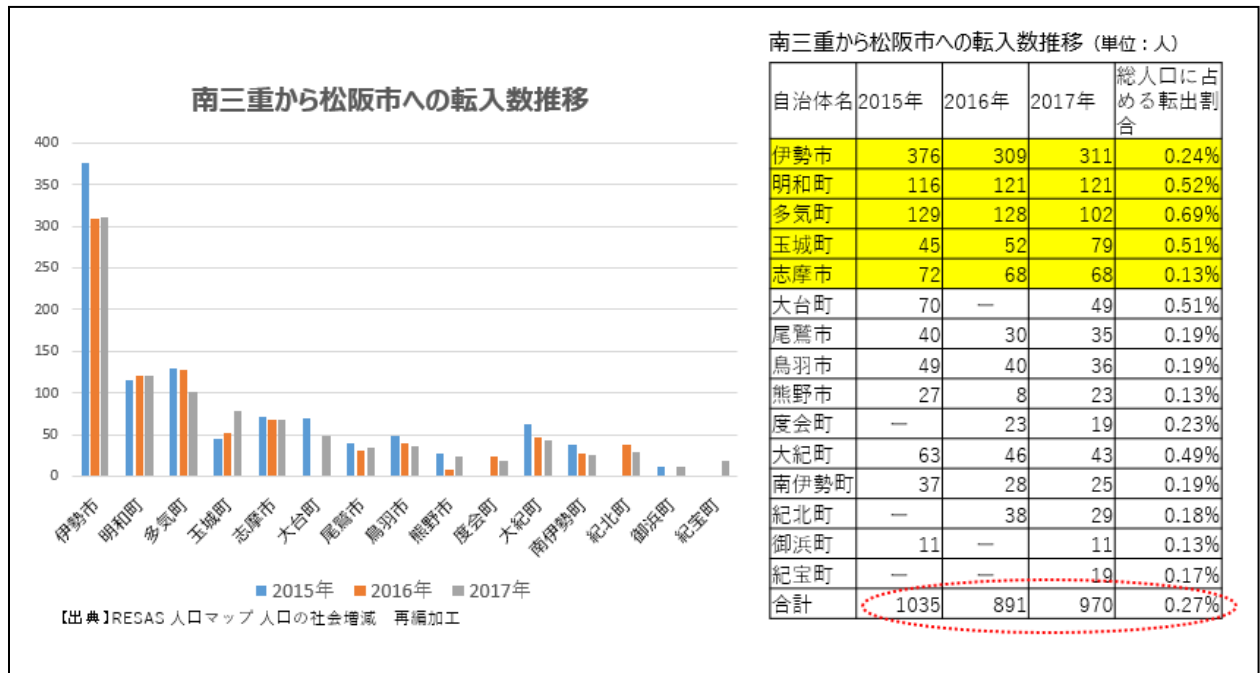
- 三重県の職業別の求人・求職の状況では、求人が少ない「事務職」で特に女性の求職が多い一方で、「専門・技術職」、「サービス職」などでは求職者数が求人数を大きく下回るなど、ミスマッチが発生している。



- 松阪市は特定業種に偏らない多様な産業構造。総生産額は南三重では最大であり、約1/3（33.2%）を占める。



- 松阪市を含めた南三重地域は人口 53 万人。松阪市への転入超過数上位自治体は当該地域が占めており、松阪市への転入数は年間 800 人を超えるなど、松阪市が人口ダム機能の役割を担っている。
- 加えて、松阪市には、周辺地域からの通勤者が一定数存在する（明和町、多気町からは、それぞれの総人口の 10%超）。



## 課題：①松阪市企業の知名度向上

- ・ 松阪市の社会増減において、進学年代層が大きく減少する一方で、就職年代層の増加はその2/3にとどまり、若年人口の域外流出が進んでいる。また、求人・求職（三重県）においてミスマッチが発生しているほか、市外への転出希望者（若年層）からは、「希望する就職先がない」との声もあるなど、松阪市内の企業情報が十分に伝わっていない可能性があり、松阪市企業の知名度向上に取り組むことが必要である。

## ②南三重地域の人口ダム機能強化

- ・ 松阪市を含めた南三重地域は人口53万人。松阪市への転入超過数上位自治体は当該地域が占め、転入数は毎年800人を超えるほか、近隣自治体からの通勤・通学も多く、松阪市は南三重地域の人口ダム機能の役割を担っている。人口減少により働き手の減少が予測される中、南三重地域の人口ダムとしての機能強化が必要である。

### 議論の内容

#### ● 企業の知名度向上

- ・ 若年人材の採用に苦勞しており、大学生やUターン就職など、松阪を転出した人材は当社の存在に気付かないのではないかと感じている。今年度、企業バスツアーの受入れを行い、入社希望につながった。今後も市が実施する企業の知名度向上を支援する取組を活用していきたい。
- ・ 若年層に向け知名度を上げる必要性を感じており、工場見学を積極的に受け入れている。自社製品や就業環境を学生や地域住民にも知ってもらうため、自社工場の見学受入れ体制を整備し、充実させていきたい。
- ・ 新工場を計画しているが、社員の家族、地域住民、学生等に自社製品を紹介する場として、会社への理解を深めたい。これらの取組を通じ、若い世代の機械、電気、情報等の技術系分野に対する関心を高め、松阪で就職する地域での人材の育成に協力したい。
- ・ 「見せる工場」として工場見学を受け入れることで、品質向上につなげていきたい。
- ・ 事業所内保育施設を工場見学の際に積極的にPRし、仕事と子育ての両立支援により、将来も安心して長く勤めることができる企業と思ってもらえるよう取り組んでいる。
- ・ 他地域の雇用人材育成推進協議会では、企業ガイドブックを作成し、学校に配布するほか、市と連携して大都市において、Uターン、Iターン向けに説明会

を開催し、採用につながっている。

- ・ 高校生に対し企業の知名度を高めるには、進路指導の先生に企業を知ってもらい、指導してもらうことが必要である。

#### ● 若年人材の育成・確保

- ・ 専門分野を学んだ大学生を採用したいが、大手企業も同様の人材を必要としており、採用ができず困っている。大学ともっとコミュニケーション・連携を取りたい。
- ・ Uターン人材に対するPRを行政と一緒に取り組みたい。
- ・ 専門知識のみならず、語学力を兼ね備えた人材の確保に苦労している。人材の採用に際し、家族を伴った転居は、子供の教育等の問題もあり、負担が大きくネックとなっている。
- ・ 松阪市教育委員会の協力を得て、中学生を対象に、地域の経営者による出張授業を実施。地域の産業への理解を深め、職業観を養う機会として実施することで、地域で活躍する人材の育成を行っている。
- ・ 人材の確保に加え、定着率も問題。若者の就労に関する意識調査を実施し、若手社員と上司の考え方、意識のギャップを調査し、企業にフィードバックすることで、企業の人材育成や定着率の向上に役立てることを検討中。
- ・ 地域の強く魅力的な産業群の存在を高校時代までに学び、接する機会を持つことが、人材の確保、呼び込みに大きく繋がるものと思われる。地元企業の認知度を高める取組をさらに拡充していくことが重要ではないか。

#### ● 南三重地域の人口ダム機能強化に向けて

- ・ 南三重からは、高速道路を使えば約1時間で通勤が可能であり、高速料金の補助や専用のアパート確保に行政とともに取り組むことが重要ではないか。
- ・ 学校を訪問し、会社概要を説明する際に、学校側から寮の有無を確認されたことがあった。企業で寮を用意するには学生が一定数必要であり、維持が難しいため、市への支援をお願いしたい。

#### 施策の方向性

- ・ 企業が必要とする人材を供給できることは重要。松阪市から転出した若者に、地域の企業を知ってもらい、地元企業に勤めれば、転勤も余りなく、暮らしていけるとしてもらえらるような、地域・土台づくりが必要。

- ・ 松阪市内の企業を知ってもらうバスツアーを企画する等、様々な取組を行っている。
- ・ これまで企業情報の冊子を各高校へ配布してきたが、学校関係者からは企業情報に対する強い希望を受けており、情報が十分に浸透していないと捉えている。加えて、進学時に転出した学生は大学で松阪市の企業情報をほとんど入手することができず、就職希望者の父兄に地域に良い企業があると分かってもらうことも重要である。
- ・ 企業情報を収集し、南三重を中心とした広域を対象として、様々な形で情報提供、PR の機会を作ることに取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 都会で就職した若者も、Uターン就職できるような地元の企業への要望があると聞いているため、(ハローワークもしくは行政において) 相談体制ができないかと思っている。
- ・ 松阪で生まれ、教育を受けて良かったと思ってもらうためにはキャリア教育にも一つの役割がある。中学校教育におけるキャリア教育を今後も充実させていきたい。

以上